

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市中区那古野1-20-30		
自己評価作成日	平成29年 1月29日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=2370401230-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中のグループホームであることを活かして、色々な商店街のイベントに参加したり、毎月第一日曜日にみたらし団子を出店しています。共に参加し、入居者一人一人が地域の一員として生活が出来る様、地域との交流の場が持てる様にきっかけ作りをしています。
 法人理念でもある「人生 楽しく 自分らしく」を実現していくため、利用者一人一人の思いややりたい事をくみ取り、本人が主役となり生活していけるホームであり続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

下町情緒あふれる商店街の一角に位置した開設12年目のホームで、地域の行事に積極的に関わり、毎月開催される「ごえん市」には「みたらし団子店」を出店する。この日は、利用者も売り子として参加する。
 着任2年目の管理者は、職員間の融和と利用者の喜びは何かを追及して職務に励んでおり、介護に掛ける情熱と誠意が感じられる。毎月職員との個別面談を実施し、介護に対する目標の共有を探っており、着実に実を結んで来た。職員に、「利用者の想いを把握する工夫」を尋ねたところ、テレビの歌番組等で興味を示したり反応が良かった曲を記録しておき、ネットで探してファイリングし、不穏な時に再生して情緒の安定に活用しているとの意見が聞けた。管理者の意図が実を結んだ結果ともいえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の理念を常に意識出来る様、自分らしく生活するとは何かをユニット会議で話し合い、支援につなげている。	ホーム開設以来掲げている「人生楽しく・・・」の意味は、ホームに係わる利用者・職員共に通じる言葉として定着している。職員ヒアリングでも即座に回答があり、理念が浸透している事実が確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の中にある事を活かし、各イベントに参加し、みたらし団子売っている。ホームでのイベントに招待出来る様にしている。	下町風情溢れる商店街の一角に位置しており、毎月開催される「ごえん市」には「みたらし団子店」を出店する。この日は、利用者も売り子として参加する。昨年は地域住民に呼びかけ、クリスマス会を開催した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしているが、会議に出席されてる方のみに理解して頂けているのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開いて取り組みや現状の報告を行っている。地域の方の意見を伺いながら協力体制の依頼もしている。	自治会長、民生委員、近隣住民、併設老人ホームの住人、行政等が参加して運営推進会議を開催している。行事報告・計画、現状報告が主議題になるが、毎回多数の質問・意見が飛び交い、運営への反映もある。	利用者家族の参加が殆ど見られない。機会を捉えては参加を促す努力を期待したい。また、テーマを決めた勉強会等の採り入れも提案したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。	運営推進会議への参加はいきいき支援センターの職員であるが、生活保護受給者を受入れているため、担当課とは常に連携を図っている。担当課員が3ヶ月に1度状況確認に来所しており、実状は伝わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施錠を行っているが、日中はどなたでも出入りが出来る様になっている。	ホームは3・4階にあり、出入りはエレベータ利用となるが、エレベータや内扉は開放しており、常に出入りが可能な状態にある。帰宅願望の強い利用者にはGPS機器を持たせて安全確保を行っている。言葉による拘束についても配慮を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について常日頃から職員間で注意を払い、虐待防止に努めている。学ぶ機会としては社内外の研修などに積極的に参加して会議で情報を共有していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にその人にとって必要性がある時には、話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は不安や疑問点を伺い、わかりやすく説明させて頂き、理解納得していただくまで何度もお話をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に意見を伺い、常日頃から入居者の思いや意見を日々のケアに活かしている。	法人主導の「家族会議」が毎年開催され、同時にアンケートを実施して家族の意見・要望を聞き出している。訪問時や請求書送付時にホームでの様子を家族に伝え、意見・要望を求めることを日常的に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の個人面談や月2回のユニット会議から出た職員の意見をもって全体会議にて話し合い、運営に反映している。	毎月1回を目途に職員との個別面談を行い、介護に対する目標共有のために意見交換をしている。各種の会議においても、「利用者が喜んでくれることは何か」をテーマにし、「クリスマス会」が提案され、実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議、全体会議GH会議の設置にて職員個々の状況を把握し目的、目標をもってケアに取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や月1回の社内研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内の同業者でコンソーシアムを月1回開催し勉強会、研修会を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動、行動から不安や思いをくみ取る事から始め、出来るだけ本人の要望に近づける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをくみ取り支援する事で信頼関係を気づける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、今必要としている支援やサービスを模索しより良い支援につなげられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を中心とし、職員は日常生活の中で見守りを第一に考えている。入居者同士のかかわりも多く、職員の介入を最小限にとどめた支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に見えるご家族も多い為、写真入りの便りや電話などで本人の様子を伝えている。また、家族が参加できるイベントを計画し、職員とも交流を深められるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の記憶を頼りに、職員と馴染みの場所や人に会いに行ったり関係継続するとともに、今まで知らなかった事を見つけるためにもできる事から情報収集を行っている。	生活歴を基に記憶を探り、その記憶を頼りに想いを叶えている。「馴染みの床屋で散髪したい」との意向があり、従前の生活域内を隈なく当たり、目的の床屋を探し出した。馴染みの喫茶店に辿り着いた事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関わりをまずは見守る事を第一に考えている。孤立している入居者に関しては声掛けなど間を取り持つような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話連絡などしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより聞き取り、思いの把握に努めている。日常会話から本人の思いを引き出し、職員間で周知している。	利用者個々の思いを探り出す積極的な取り組みが見られる。何気ない会話から馴染みの床屋や喫茶店、旧友宅に辿り着いたり、利用者が口ずさんだ曲をネットで調べてファイリングし、不穏解消に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話から行動から本人を知り、またご家族や友人からの情報でご本人の生活歴を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを尊重し「出来る事」や「～がしたい」という本人の意思で生活することが出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重して作成している。毎日の生活の中で職員から出たアイデアや気づきを会議で話し合い、作成や見直しに反映させるよう努めている。	個々の状態に合わせ、期間を定めず随時計画の見直しを行っている。1～2ヶ月毎に計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、センター方式で全職員の意見を収集し、家族意見を反映させて立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の言葉、行動、思いに常に耳を傾け、ありのままを記録し、職員間で情報の共有と支援の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のその時々ニーズに対応出来る様いろいろな社会資源の情報収集を行い、職員間で共有している。本人の「～したい」を尊重し、出来る限り添える様に他の事業者とも連携を取り、協力をお願い出来る様環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、学区の一員として地域の住人や子供会、老人会との交流を図りながら地域資源を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得が得られたうえでつばめ在宅クリニックへの往診をお願いしている。また病院受診が必要は際も本人や家族の希望を伺い、受診希望のある病院への連絡、調整、連携に努めている。	協力医の月2回の往診、訪問看護による週1回の健康管理、歯科衛生士の週1回の口腔ケア、必要時の訪問歯科の往診等がある。地域の薬局が処方箋を受け取ると、薬を届けてくれる協力体制もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護と連携を取り、身体の変化や気づきを相談し、適切な対応方法などのアドバイスを頂き支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、主治医、ワーカーとの情報交換を行い、本人の意向を尊重しながら医療機関と早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族や本人の希望を把握している。ホームの指針を元に、その都度ご家族や本人、看護師、医師と相談をしながら進める様にしている。	利用者・家族と話し合い、想いを大切に、その人らしい最期を迎えられるよう、ホームでの看取り、他施設への移行等を総合的に検討している。協力医の助言を受け、安心できる体制づくりに努めており、看取りの研修や医師から緩和ケアの指導を受けている。	重度化した利用者を抱えた場合の勤務体制には、職員に過度な負担がかからないよう細心の配慮を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎回の会議で想定できる事故に対して、リスクマネジメントを行っている。また急変時の対応については看護師による研修に参加し、知識や対応方法について学ぶ機会を作り、実践力を身に付ける様に参加を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域の方に参加いただき、どのように避難しているか見て頂いた。地域で災害が起きた時どうするかまで話し合っていない。	地域の防災訓練に参加し、避難経路の確認を行っている。ホームでは年2回夜間想定を含めた通報訓練や避難訓練を行い、地域住民も見学して立ち合っている。非常食の備蓄も整備を始めた。	避難・通報訓練に併せ、職員への緊急連絡網の確認及び消防署の指導も視野に入れた訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して目上の人として尊敬の念をもって接し、言葉遣いや声掛けにも留意している。また、一人一人の人格を否定することなく支援していく事にも努めている。	敬語での会話を基本とし、利用者の言葉を否定することなく受け止めるよう努めている。それぞれの気持ちを尊重し、不安を取り除く支援に取組んでおり、接遇研修も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや気持ちを表出しやすいような環境作りや声掛けを大切に、本人が判りやすい言葉でより多くの選択肢を提供できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその時その時の思いをくみ取り、個々のペースに合わせて支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った衣替えを支援し起床時入浴時に本人に服を選んでもらうよう支援している。また、馴染みの美容院や床屋にも同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューは決まっておらず、その都度メニューと一緒に考え買い物・調理・盛り付けも一緒に行っている。調理など行えない方は配膳下膳・片付けなど出来る事を行っている。	ユニット毎に利用者と共に毎日買い出しに出かけ、希望を取り入れてその日のメニューを決めている。個々の能力に合わせ、調理から片付けまで利用者の活躍の場は多く、季節感のある家庭料理が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の少ない方は主治医に相談し、栄養補給剤の処方や好きな飲み物などを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守りが必要な入居者には毎食後の支援している。義歯の洗浄、管理に関しても必要に応じて支援している。また、定期的に歯科医の訪問を受け口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期や習慣を職員間で共有し、本人のサインに気付き、さりげない声掛けや誘導を心掛けている。常にモニタリングを行い、トイレでの排泄に向けて支援している。	オムツからリハパンへ、パッド使用から布パンツへと、入居後に排泄の自立度が改善した事例がある。本人の自尊心を最大限尊重し、失禁時も自分で着替えができる利用者は、可能な限り本人に任せている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について話し合い、理解に努めている。日々の食事に食物繊維を多く取り入れたり、水分を多く取ってもらえる様心掛けている。必要時には主治医に相談し、服薬によるコントロールをしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムを尊重し、本人のペースで入浴してもらっている。	入浴支援器具を導入し、シャワー浴の利用者も湯船に入れるようになった。一人ずつ湯を張替え、週3回の入浴を基本としている。入浴拒否の強い利用者には無理強いせず、清拭やドライシャンプーで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に留意し、一人一人に合わせた温度調整を行っている。日中も本人の生活に合わせ居室で休息したり、フロアソファで休息して頂いている。ベッドの位置や枕の高さにも個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての留意事項を主治医、薬剤師より説明を受けて職員間で周知している。また、副作用に留意し、日々の様子を観察し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の「～したい」を大切に、本人の歴史や習慣を知り、出来る事を活かし喜びある生活を送るために支援していくように努めている。普段の会話から出た本人の希望や想いに沿うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の「～行きたい」の希望に沿い、行きたい時に行けるよう支援している。本人の希望があるときは他事業者との連携を図り、遠方の畑への外出の調整も行っている。	商店街にあるスーパーへの買い物や散歩、金毘羅参りと外出機会は多く、喫茶店も好意的に受け入れてくれる協力関係がある。年2～3回ユニットごとに季節を感じる企画外出を行い、個別の希望にも可能な限り対応する手厚い支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族と話し合い、希望日に希望の金額を所持してもらっている。自己の管理が困難な方にも職員が見守り、支払いは出来るだけ本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回写真を付けて手紙を送っている。入居者からの手紙の送付も今後は行って行きたい。電話は希望時にかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは極力シンプルに物を置きすぎない様心掛けていますが、入居者の動きやすさ、物の取りやすさなどに配慮したものになっている。常に清潔に保ち、玄関に花を飾り季節を感じられるようにしている。	商店街の一角に所在するため制約も多いが、必要最低限の共有スペースは確保されている。落ち着いた色調のリビングは、対面カウンターから常に見守りができる。法人の有する農園もあり、そこでの作業は利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でもソファが離れた位置に一人でゆっくり座ってテレビや雑誌が読める様配慮している。又、皆でくつろげる、そふぁーをおいてあり、思い思いに過ごせる様配慮、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具をより多く利用し、保護人の今までの生活の継続が出来る様使い慣れた配置をご自身で作って頂ける様に支援している。	亡き夫の写真を祀り、仏壇には仏飯や花が備えられた部屋、生きているような猫の人形が座っている部屋、小引出しが一円玉貯金箱として置かれた部屋等、自分の生活を持ち込み、居心地良く過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具配置をはじめ、居室空間や居間や浴室等生活するうえで本人が、わかりやすさ、使いやすさに配慮したものになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市中区那古野1-20-30		
自己評価作成日	平成29年 1月29日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&KijyosyoCd=2370401230-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中のグループホームであることを活かして、色々な商店街のイベントに参加したり、毎月第一日曜日にみたらし団子を出店しています。共に参加し、入居者一人一人が地域の一員として生活が出来る様、地域との交流の場が持てる様にきっかけ作りをしています。
 法人理念でもある「人生 楽しく 自分らしく」を実現していくため、利用者一人一人の思いややりたい事をくみ取り、本人が主役となり生活していけるホームであり続けたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の理念を常に意識出来る様、自分らしく生活するとは何かをユニット会議で話し合い、支援につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の中にある事を活かし、各イベントに参加し、みたらし団子を売っている。ホームでのイベントに招待出来る様にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしているが、会議に出席されてる方のみに理解して頂けているのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開いて取り組みや現状の報告を行っている。地域の方の意見を伺いながら協力体制の依頼もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間帯のみ玄関に施用を行っているが、日中はどなたでも出入りが出来る様になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について常日頃から職員間で注意を払い、虐待防止に努めている。学ぶ機会としては社内外の研修などに積極的に参加して会議で情報を共有していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にその人にとって必要性がある時には、話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は不安や疑問点を伺い、わかりやすく説明させて頂き、理解納得していただくまで何度もお話をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に意見を伺い、常日頃から入居者の思いや意見を日々のケアに活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の個人面談や月2回のユニット会議から出た職員の意見をもって全体会議にて話し合い、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議、全体会議GH会議の設置にて職員個々の状況を把握し目的、目標をもってケアに取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や月1回の社内研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内の同業者でコンソーシアムを月1回開催し勉強会、研修会を行い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動、行動から不安や思いをくみ取る事から始め、出来るだけ本人の要望に近づける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをくみ取り支援する事で信頼関係を気づける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、今必要としている支援やサービスを模索しより良い支援につなげられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を中心、職員は日常生活の中で見守りを第一に考えている。入居者同士のかかわりも多く、職員の介入を最小限にとどめた支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に見えるご家族も多い為、写真入りの便りや電話などで本人の様子を伝えている。また、家族が参加できるイベントを計画し、職員とも交流を深められるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の記憶を頼りに、職員と馴染みの場所や人に会いに行ったり関係継続するとともに、今まで知らなかった事を見つけるためにもできる事から情報収集を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関わりをまずは見守る事を第一に考えている。孤立している入居者に関しては声掛けなど間を取り持つような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々電話連絡などしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより聞き取り、思いの把握に努めている。日常会話から本人の思いを引き出し、職員間で周知している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話から行動から本人を知り、またご家族や友人からの情報でご本人の生活歴を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムを尊重し「出来る事」や「～がしたい」という本人の意思で生活することが出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重して作成している。毎日の生活の中で職員から出たアイデアや気づきを会議で話し合い、作成や見直しに反映させるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の言葉、行動、思いに常に耳を傾け、ありのままを記録し、職員間で情報の共有と支援の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のその時々ニーズに対応出来る様いろいろな社会資源の情報収集を行い、職員間で共有している。本人の「～したい」を尊重し、出来る限り添える様に他の事業者とも連携を取り、協力をお願い出来る様環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、学区の一員として地域の住人や子供会、老人会との交流を図りながら地域資源を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得が得られたうえでつばめ在宅クリニックへの往診をお願いしている。また病院受診が必要は際も本人や家族の希望を伺い、受診希望のある病院への連絡、調整、連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護と連携を取り、身体の変化や気づきを相談し、適切な対応方法などのアドバイスを頂き支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、主治医、ワーカーとの情報交換を行い、本人の意向を尊重しながら医療機関と早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族や本人の希望を把握している。ホームの指針を元に、その都度ご家族や本人、看護師、医師と相談をしながら進める様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎回の会議で想定できる事故に対して、リスクマネジメントを行っている。また急変時の対応については看護師による研修に参加し、知識や対応方法について学ぶ機会を作り、実践力を身に付ける様に参加を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域の方に参加いただき、どのように避難しているか見て頂いた。地域で災害が起きた時どうするかまでしか話し合っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して目上の人として尊敬の念をもって接し、言葉遣いや声掛けにも留意している。また、一人一人の人格を否定することなく支援していく事にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや気持ちを表出しやすいような環境作りや声掛けを大切に、本人が判りやすい言葉でより多くの選択肢を提供できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその時その時の思いをくみ取り、個々のペースに合わせて支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った衣替えを支援し起床時入浴時に本人に服を選んでもらうよう支援している。また、馴染みの美容院や床屋にも同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューは決まっておらず、その都度メニューと一緒に考え買い物・調理・盛り付けも一緒に行っている。調理など行えない方は配膳下膳・片付けなど出来る事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の少ない方は主治医に相談し、栄養補給剤の処方や好きな飲み物などを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守りが必要な入居者には毎食後の支援している。義歯の洗浄、管理に関しても必要に応じて支援している。また、定期的に歯科医の訪問を受け口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄周期や習慣を職員間で共有し、本人のサインに気付き、さりげない声掛けや誘導を心掛けている。常にモニタリングを行い、トイレでの排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について話し合い、理解に努めている。日々の食事に食物繊維を多く取り入れたり、水分を多く取ってもらえる様心掛けている。必要時には主治医に相談し、服薬によるコントロールをしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活リズムを尊重し、本人のペースで入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に留意し、一人一人に合わせた温度調整を行っている。日中も本人の生活に合わせ居室で休息したり、フロアソファで休息して頂いている。ベッドの位置や枕の高さにも個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての留意事項を主治医、薬剤師より説明を受けて職員間で周知している。また、副作用に留意し、日々の様子を観察し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の「～したい」を大切に、本人の歴史や習慣を知り、出来る事を活かし喜びある生活を送るために支援していくように努めている。普段の会話から出た本人の希望や想いに沿うよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の「～行きたい」の希望に沿い、行きたい時に行けるよう支援している。本人の希望があるときは他事業者との連携を図り、遠方の畑への外出の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族と話し合い、希望日に希望の金額を所持してもらっている。自己の管理が困難な方にも職員が見守り、支払いは出来るだけ本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回写真を付けて手紙を送っている。入居者からの手紙の送付も今後は行って行きたい。電話は希望時にかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは極力シンプルに物を置きすぎない様心掛けていますが、入居者の動きやすさ、物の取りやすさなどに配慮したものになっている。常に清潔に保ち、玄関に花を飾り季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でもソファーが離れた位置に一人でゆっくり座ってテレビや雑誌が読める様配慮している。又、皆でくつろげる、そふぁーをおいてあり、思い思いに過ごせる様配慮、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具をより多く利用し、保護人の今までの生活の継続が出来る様使い慣れた配置をご自身で作って頂ける様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具配置をはじめ、居室空間や居間や浴室等生活するうえで本人が、わかりやすさ、使いやすさに配慮したものになっている。		